

今日(けふ)紹介(しょうかい)するお話(お話し)は、ある家庭(けいけい)の夕食(いじき)後の団らん(だんらん)から始まり
ます。

「ねえ、『どういわってなに？』」

小学(しょうがく)二年生(にねんせい)の息子(こ)が、学校(がっこう)で耳(みみ)にした言葉(ことば)について、父親(ちち)に
尋ね(たず)ねました。父親(ちち)は一瞬(ひとしじ)戸惑(戸惑)いましたが、口(くち)から出てきたのは、
「そんなこと、知らなくていいよ。」という返事(こたへ)でした。

父親(ちち)は小学(しょうがく)生(せい)のころ、部落(ぼくらく)差別(さべつ)のことを祖母(おばあ)から聞いたことが
ありました。そんな自分の体験(たいけん)から、なんとなく息子(こ)に教(おし)えな
いほうがいいのではと想(おも)ったのです。

『あえて知らせる必要(ひつよう)はないよ。』

息子(こ)が寝(ね)たあと(あと)で、その話(わらわ)を聞(き)かされた母親(はは)の反応(はんおう)は、父親(ちち)に
とって意外(いざい)なものでした。

「えっ、どうして？」

「どうしてって、知らないままですら、差別(さべつ)することもない
じゃないか。そしておけば、同和(どうわ)問題(もんだい)もいつか自然(じぜん)になく
なっていくよ。」

「私は、正しい知識(ちしき)をちゃんと教(おし)えたほうがいいと思(おも)い。」

母親(はは)は、どうにも納得(納得)がいかない様子(ようす)です。というのも、母親(はは)
は市民(しみん)センターでの人権(じんけん)講座(こうざ)で同和(どうわ)問題(もんだい)について詳(くわ)しく学(まな)んだ
経験(けいけん)があったからです。

「今は情報(じょうほう)化(か)社会(かい)で、いろんな情報(じょうほう)が氾濫(はんらん)しててしょ。どこか
で悪質(あくしつ)な書き込み(かきこみ)などを目(め)にしてしまつかもしれない。正しい
知識(ちしき)を身(み)につけていなかったら、誤(あや)まった情報(じょうほう)をうのみにして、
子どもが差別(さべつ)をする側(がは)の人間(にんげん)になってしまつかもしれないよ。
それでもいいの？」

父親(ちち)は、すべには返事(こたへ)ができませんでした。

いかがでしたか。

平成(へいせい)二十八年(にじゅうはちねん)十二月(じゅうにがつ)、部落(ぼくらく)差別(さべつ)の解消(けいしょう)の推進(すいじん)に関する法律(りっく)「が
施行(しんぎ)されました。この法律(りっく)には「現在(げんざい)もなお部落(ぼくらく)差別(さべつ)が存在(そんざい)する」
と明記(めいき)されています。差別(さべつ)意識(いしき)は、自然(じぜん)に無(な)くなっていくもの
ではありません。同和(どうわ)問題(もんだい)を解決(かいげつ)するには、一人(ひとり)一人(ひとり)が正しい
知識(ちしき)を身(み)につけることが大事(だいじ)なのです。

最後(さいご)にもう一度(いちど)、先(まづ)ほどの家庭(けいけい)をのぞいてみましょう。

夫婦(夫婦)で話(わ)したあと(あと)に、父親(ちち)は「息子(こ)にとって、本当(ほんとう)に何が大切(たいせつ)
なんだろう」と考(かん)え始め(はじめ)ました。そして、自分(おれ)も同和(どうわ)問題(もんだい)のこと
をきちんと勉強(べんきょう)し、正(ただ)しく息子(こ)に伝(つた)えようと決(き)心(こころ)しましたよつとですよ。
では、また。

